



佐賀牛A5ラウンド with むつごろう R4.8.27(土) Zoomによるオンライン

今年も暑さが厳しい中、全国津々浦々から「九州体育・保健体育ネットワーク～佐賀牛 A5 ラウンド with むつごろう～」に、県内外から計15名の先生方にオンラインにて御参加していただきました。途中退席の方もいらっしゃいましたが、本県の実践発表からブレイクアウトセッションに熱い議論を交えながら有意義な時間を過ごすことができました。

1. 実践発表その1「体育におけるICTの効果的活用について」

(1) 発表者：佐賀市立新栄小学校 教諭 楠原 克浩



(2) 対象：2年生「とびばこランド」の手立て → 「深い学び」のためのICTと「中間評価」

(3) グループディスカッション

- ・学年の発達段階に応じたICTの活用法や、目的に応じたICTの活用が大切である。ただ、現段階では「まず使う」ことから始める必要もある。
- ・親のスマホや貸し出し用ルーターも活用できる。 等

2. 実践発表その2「探究的な学びへ誘う水泳運動の指導について」

(1) 発表者：佐賀大学教育学部附属小学校 教諭 小川 雄也（1年）、寺田 隆宏（6年生）

(2) 対象：1年生「水遊び」（ぶくぶく・ぷかぷかすること） → どうしたら水遊びをおもしろくできるかな？（単元を貫く問い）

6年生「水泳運動」 → どうやってより長く泳ぐことができるかな？（単元を貫く問い）

(3) グループディスカッション

- ・おもしろくするための手がかりとして、大きさ・数・時間・場所・向きなどの視点を与えたり、子供の振り返りから価値付けたりする。水泳は「脱力」と「呼吸」が大切である。
- ・スイミングクラブを活用しているところもある。 等

3. 実践発表その3「新しい学習評価を考える！」

(1) 発表者：伊万里市立伊万里中学校 校長 福井 宏和



(2) 対象：伊万里市・西松浦郡内中学校9校 → 信頼性と妥当性のある評価に向けて

(3) グループディスカッション

- ・何をもって信頼性があるのか考える必要がある。愛好的態度は方向目標である。
- ・詳細は「体育科教育（7月号）」に高田彬成先生が執筆されている。評定とのつながりを意識して計画的に行う。 等

4. 「実践発表及びグループディスカッションのまとめ」「情報提供」

(1) 説明者：佐藤 豊先生

(2) 説明のポイント

- ・3観点について・梶田理論
- ・学校や地区で考え続ける、学び続ける
- ・評価はだれのためにするのか？
- ・ICTは第3のプラットフォーム



来年も佐賀でお会いしましょう！

(文責：吉田 宗平)